

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（概要）

小浜市教育委員会

1. はじめに

学習指導要領では、教育課程全体を通して目指す資質・能力を3つの柱に整理しています。

- ① 生きて働く「知識・技能」
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

小浜市ではこれらの3つの資質・能力を育てる授業を全ての教員が実践できるよう、「3S学習」をベースとした「授業力向上」に取り組んでいます。

一方、全国学力・学習状況調査は学習指導要領の目標がどれほど達成されているかを調査するものです。結果を分析して良好な点と課題を明らかにし、授

業改善を通して、子どもたちの資質・能力を伸ばすことを目的として毎年度実施されています。

以下に、本年度に実施された調査の結果について本市の概要をお知らせします。本調査により測定できるのは、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用していきたいと思います。



令和5年度全国学力・学習状況調査の概要

📅 調査期日

令和5年4月18日

📅 調査の対象

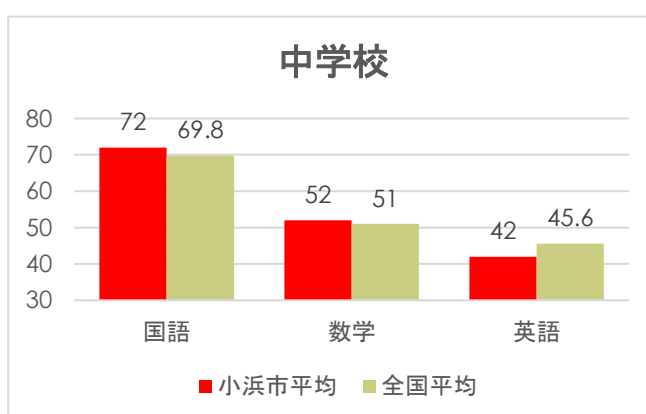
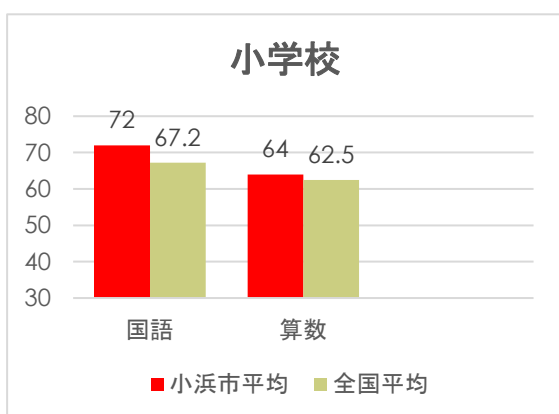
市内小学6年生

市内中学3年生

📅 調査の内容

- ① 教科に関する調査
(国語、算数・数学・中学英語)
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

1. 学力調査結果



今年度は、中学校にて4年ぶりに英語を加えた3教科での調査が行われました。国語、算数・数学における平均正答率は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。一方、中学校で実施された英語は全国平均を下回る結果で、課題と言えます。

小学国語

学習指導要領の内容		小浜市	全国
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.1	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	○67.7	63.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	○80.1	72.6
	B 書くこと	○39.2	26.7
	C 読むこと	○76.9	71.2

小学算数

学習指導要領の領域	小浜市	全国
A 数と計算	68.4	67.3
B 図形	▲45.4	48.2
C 変化と関係	○74.5	70.9
D データの活用	○70.9	65.5

中学国語

学習指導要領の内容		小浜市	全国
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.2	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.1	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	○80.5	74.7
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	82.0	82.2
	B 書くこと	○65.5	63.2
	C 読むこと	○69.7	63.7

中学数学

学習指導要領の領域	小浜市	全国
A 数と式	64.0	63.0
B 図形	▲32.2	33.2
C 関数	51.0	51.2
D データの活用	○50.8	48.5

中学英語

学習指導要領の内容	小浜市	全国
(1) 聞くこと	▲56.4	58.4
(2) 読むこと	51.2	51.2
(5) 書くこと	▲14.6	23.4

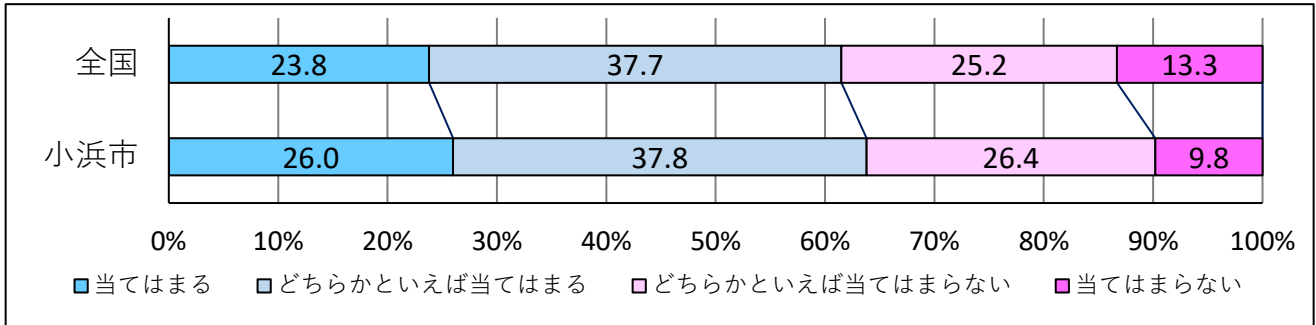
上記の表の○印が全国平均と比較して良好な点、▲印が全国平均と比較して課題点と言えます。（無印は全国平均とほぼ同じ状況です）

2. 学習状況調査結果

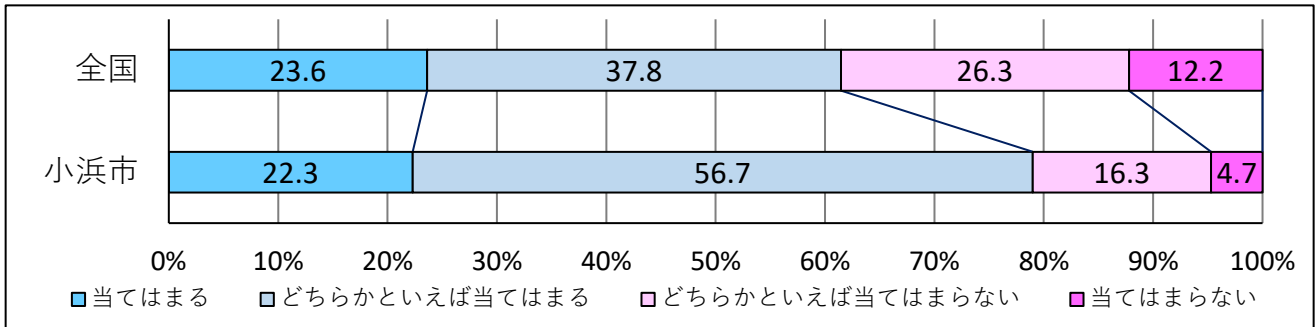
(1) 教科の学習について

①-1 国語の勉強は好きだ

小学6年

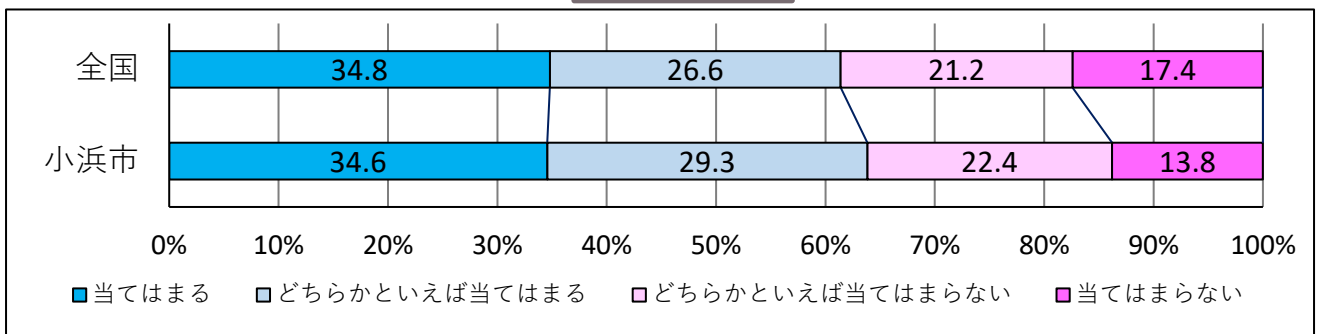


中学3年

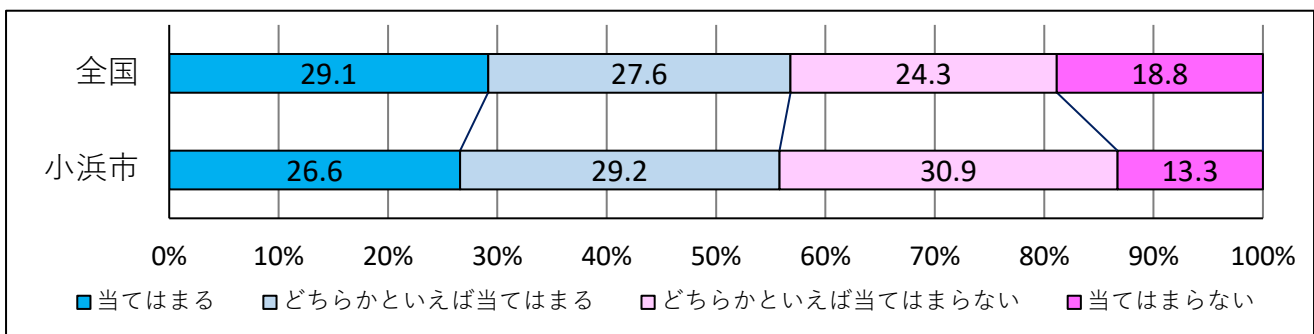


①-2 算数（数学）の勉強は好きだ

小学6年

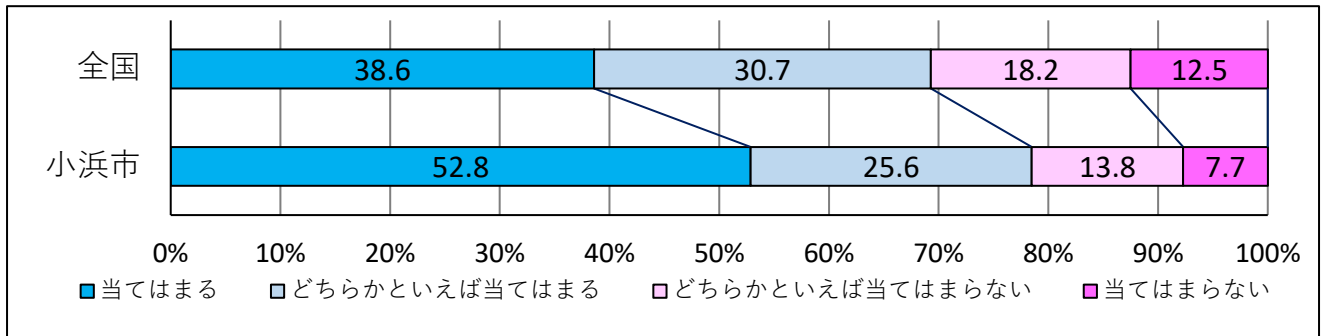


中学3年

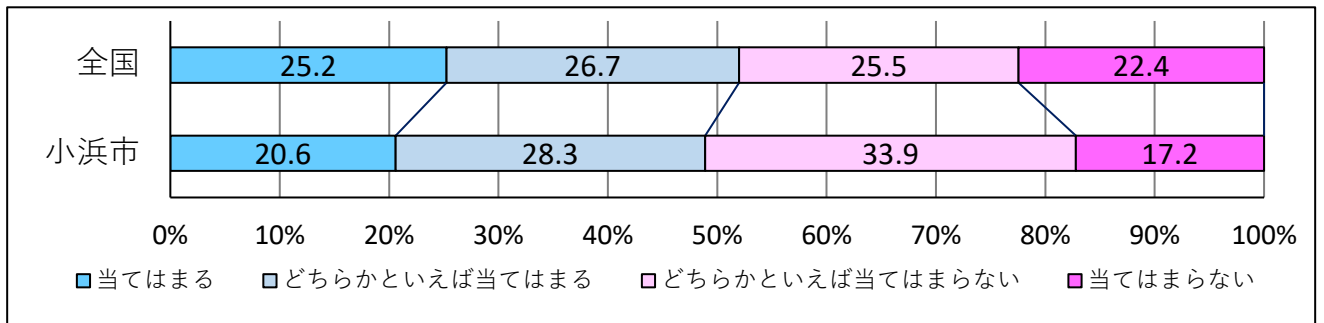


①-3 英語の勉強は好きだ

小学6年

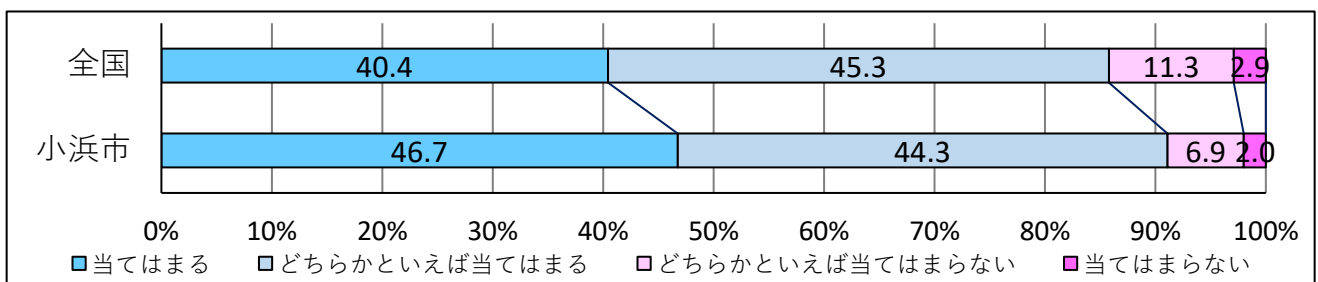


中学3年

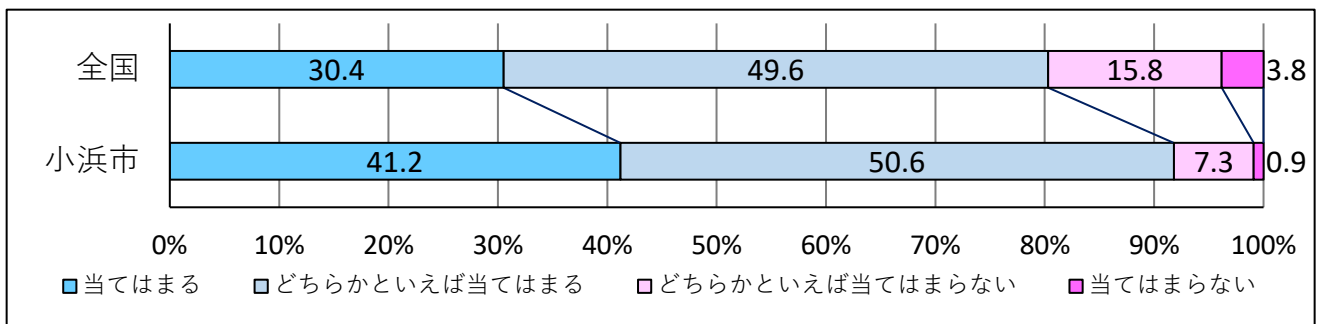


②-1 国語の内容はよく分かる

小学6年

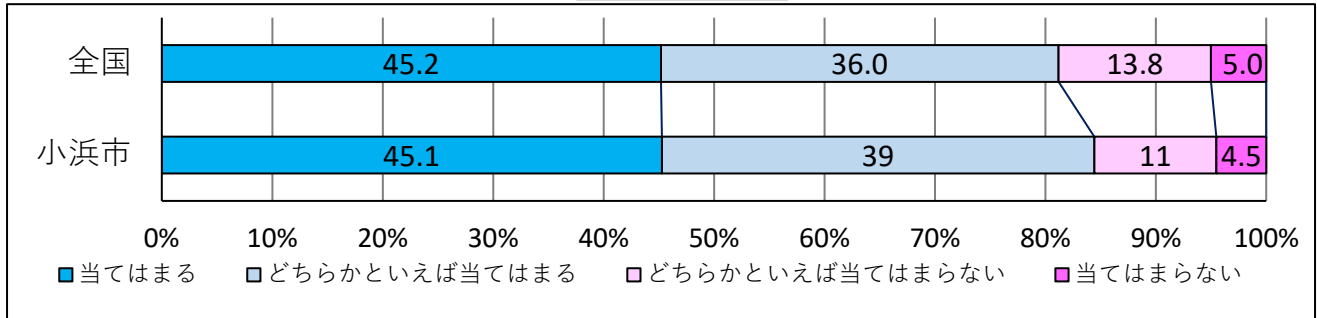


中学3年

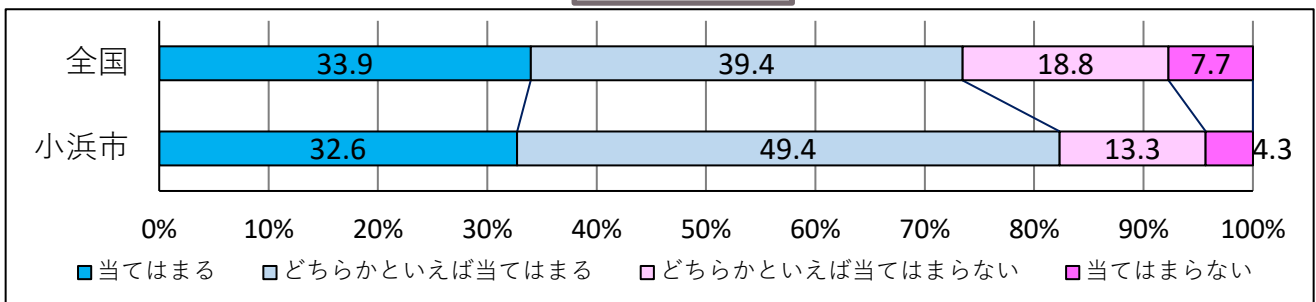


②-2 算数（数学）の内容はよく分かる

小学6年

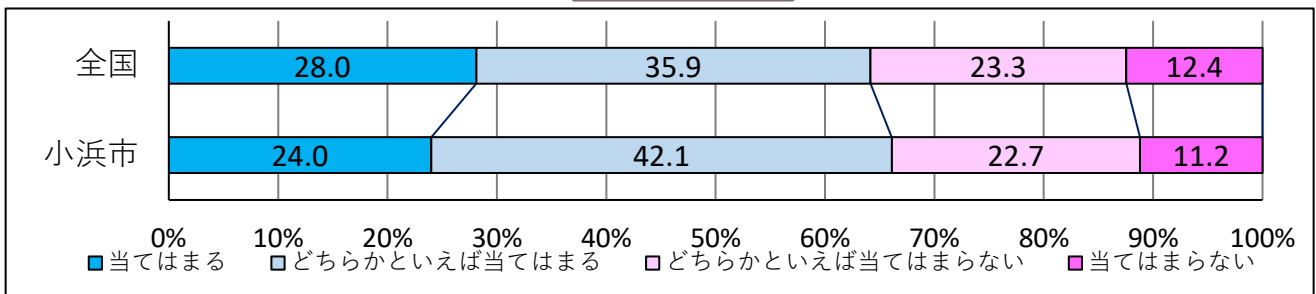


中学3年



②-3 英語の内容はよく分かる

中学3年



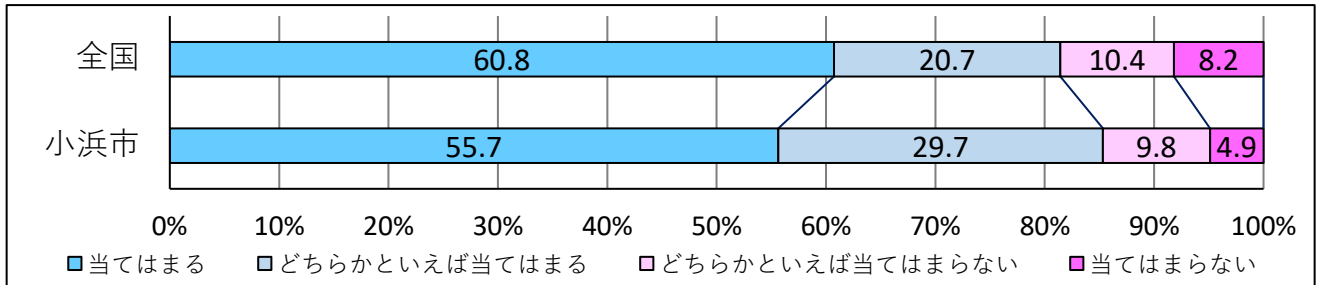
◎本市では、「勉強が好き」という項目について、国語（小・中）・算数・英語（小）で、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答の割合が全国平均よりも高くなっています。一方、数学・英語（中）では、肯定的な回答の割合が全国平均よりも低く、課題と言えます。特に、英語では、肯定的にとらえている児童生徒の割合が小学校では全国平均と比較してとても高いのに、中学校では低くなっていることに対する改善が重要です。

◎本市では、「勉強がよくわかる」という項目について、国語（小・中）、算数・数学、英語（中）で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」という肯定的な回答の割合が全国平均よりも高くなっています。中学校の数学・英語では、今後「当てはまる」の割合をさらに高めていく授業改善が重要です。

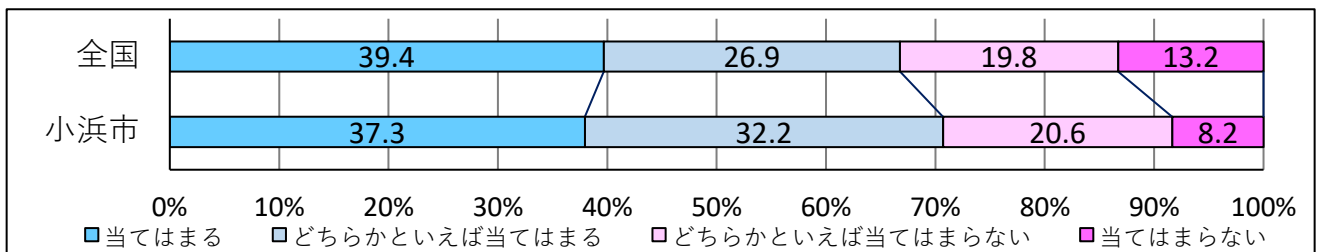
(2) 自分自身について

① 将来の夢や目標を持っている

小学6年

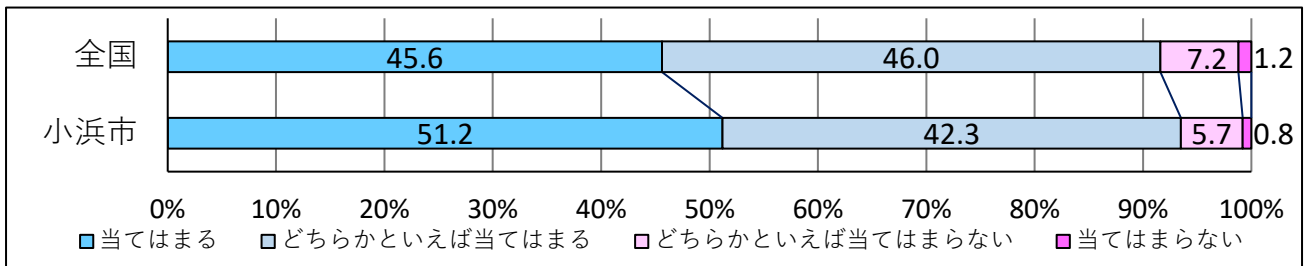


中学3年

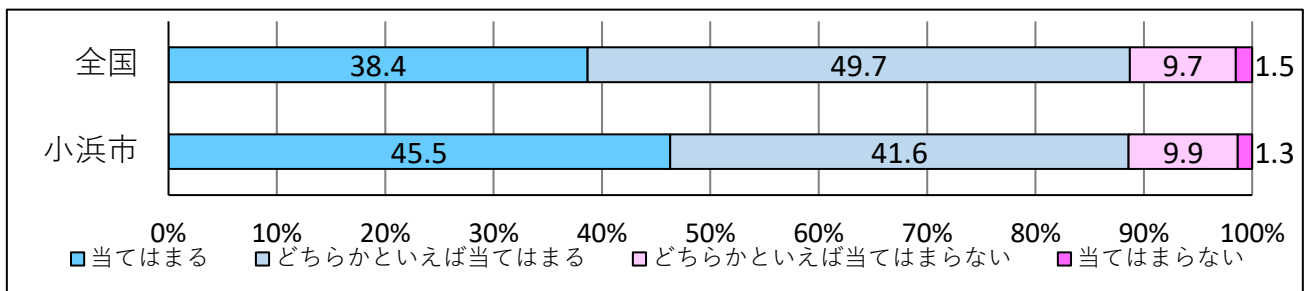


② 人が困っているときは進んで助けている

小学6年

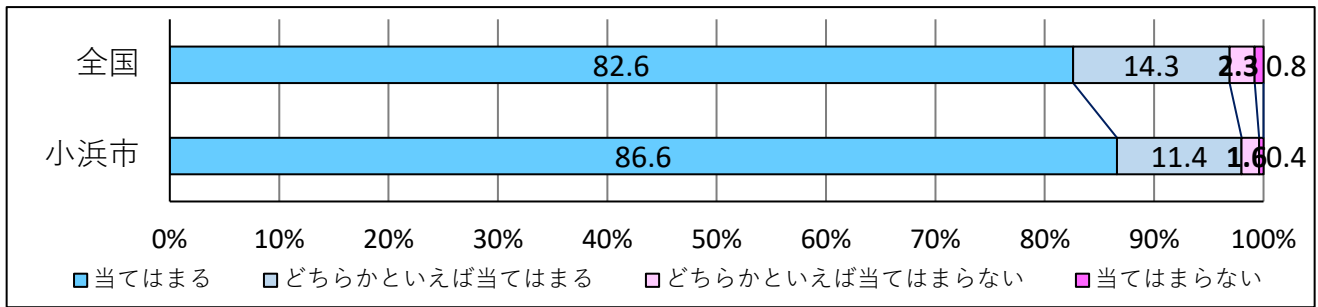


中学3年

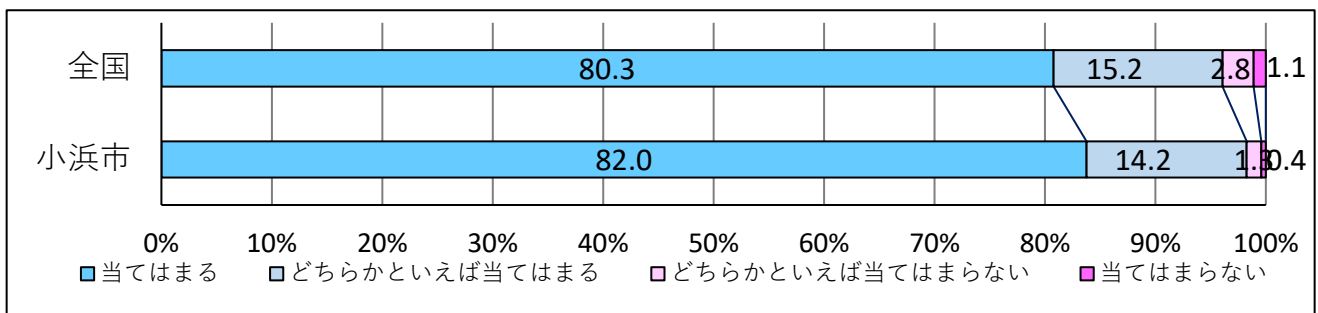


③ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

小学6年

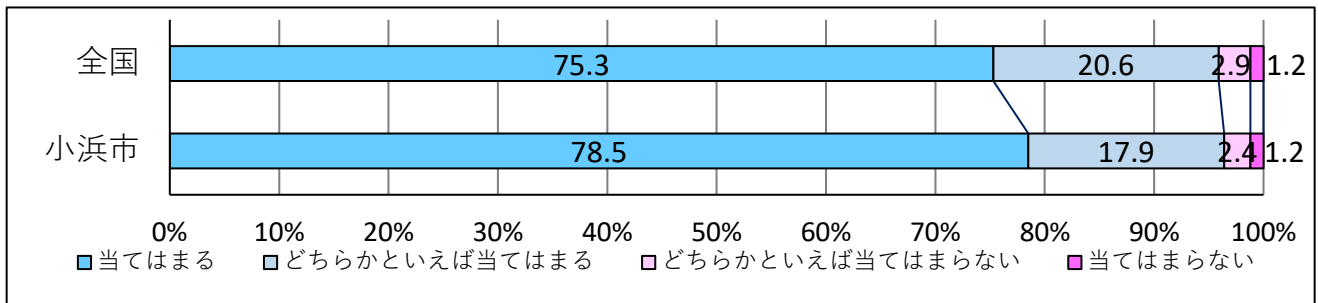


中学3年

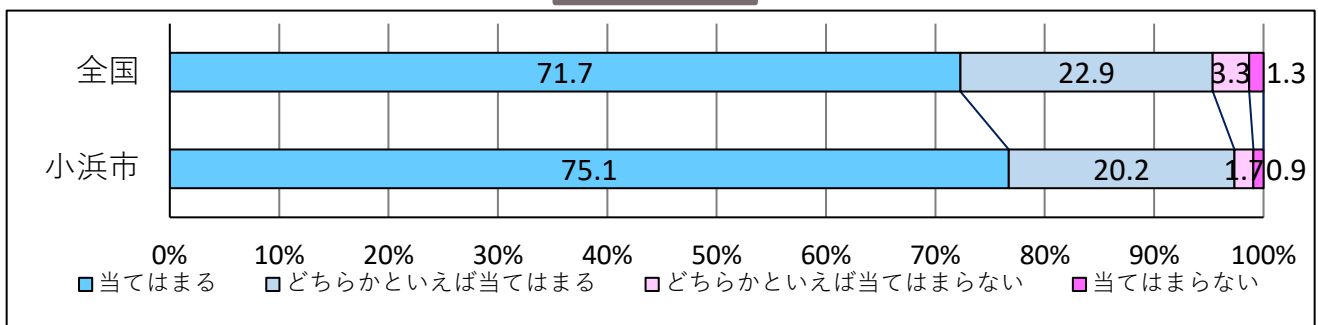


④ 人の役に立つ人間になりたいと思う

小学6年



中学3年

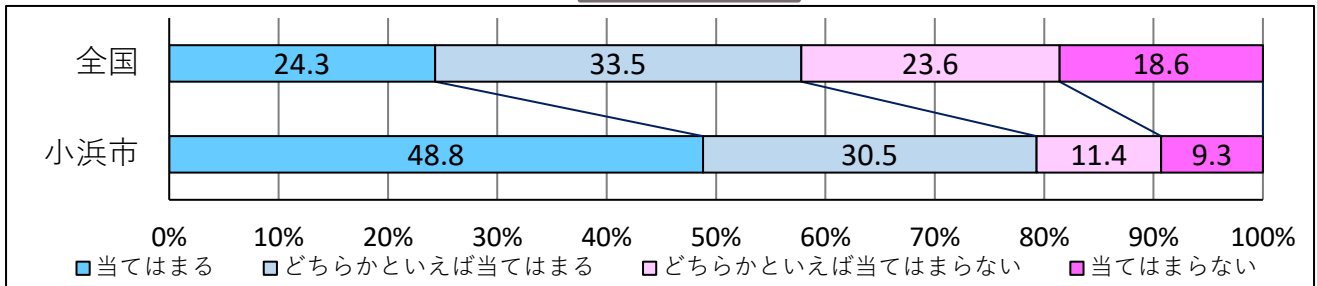


◎本市では、将来への夢や目標を持ち、人権意識の高い児童生徒の割合が、小・中学校とも全国平均に比べて高いです。今後も、特別の教科道徳を要とした道徳教育の充実に力を入れていきます。

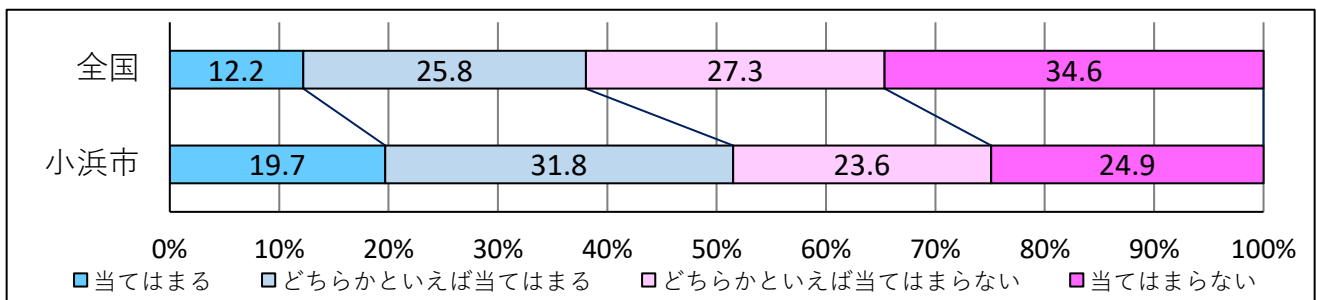
(3) 地域とのつながり、地域への関心について

① 今住んでいる地域の行事に参加している

小学6年

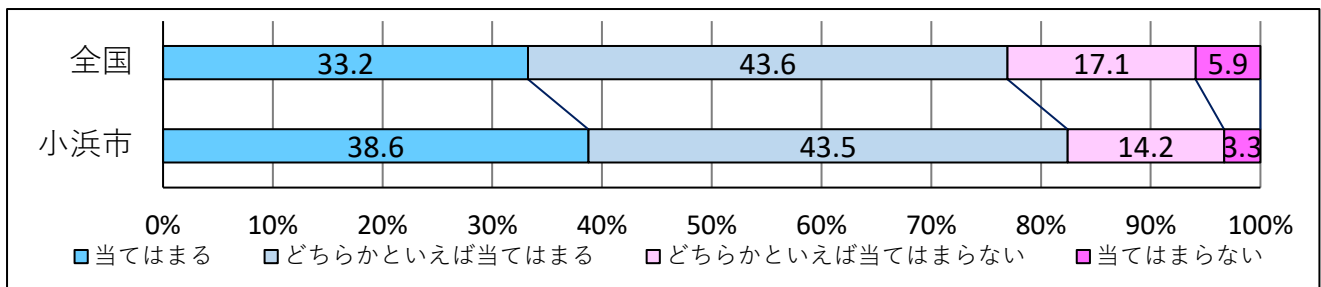


中学3年

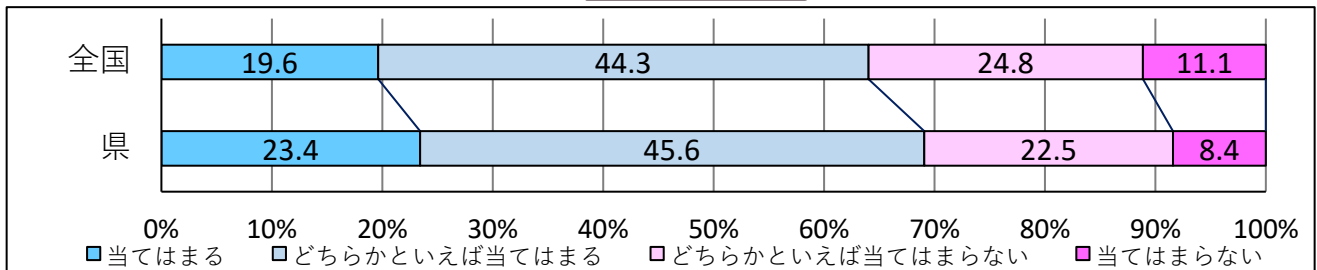


② 地域や社会をよりよくするために何かしてみたい

小学6年



中学3年

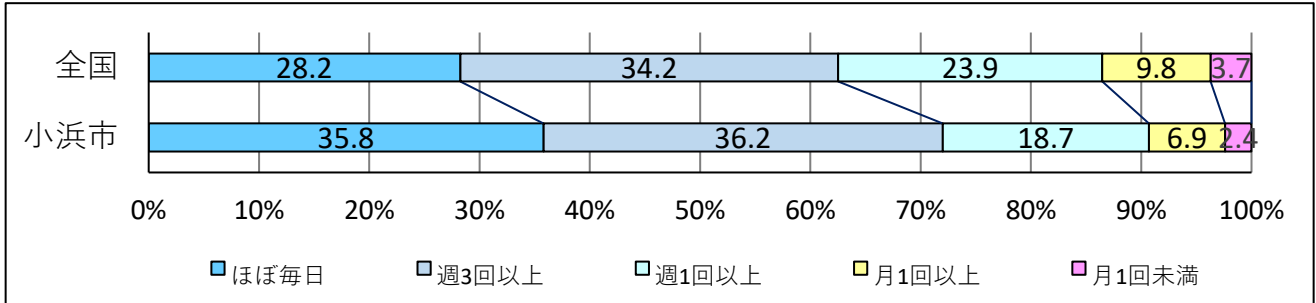


◎本市では、地域の行事に参加する児童生徒の割合や、社会や地域をよりよくするために何をすべきかを考える児童生徒の割合が、ともに全国平均を大きく上回っており、本市が力を入れて推進している「ふるさと教育」「キャリア教育」の成果が反映された結果となっています。

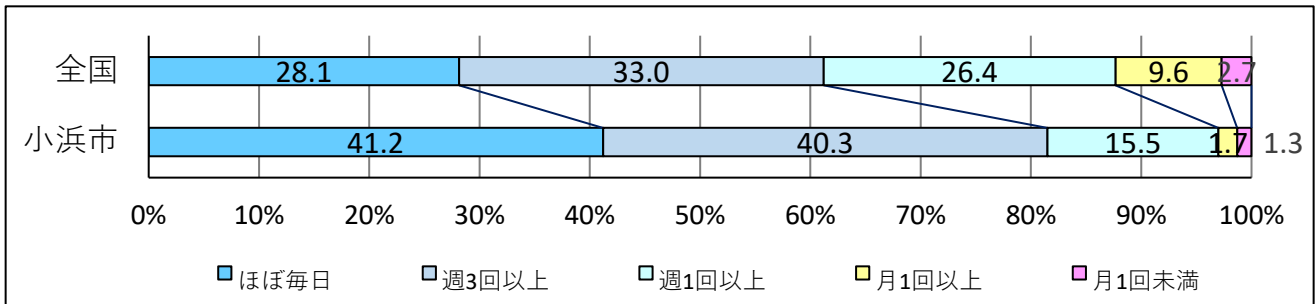
(4) ICT 機器の活用について

① 小5年生(中1・2年生の時に)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学6年

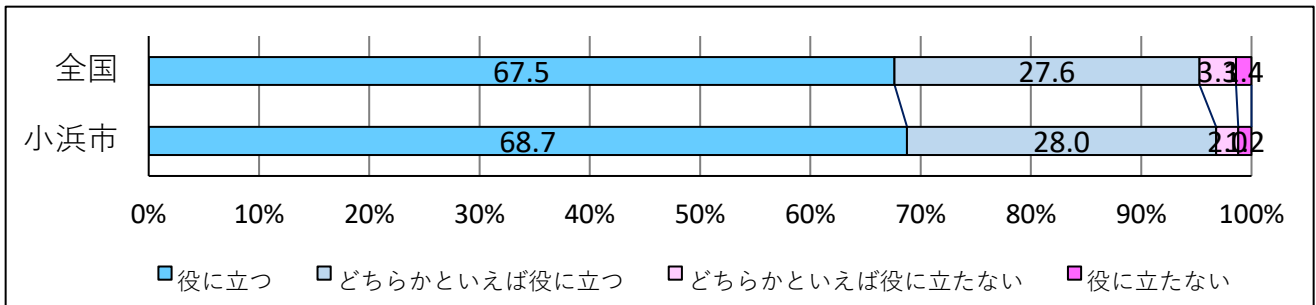


中学3年

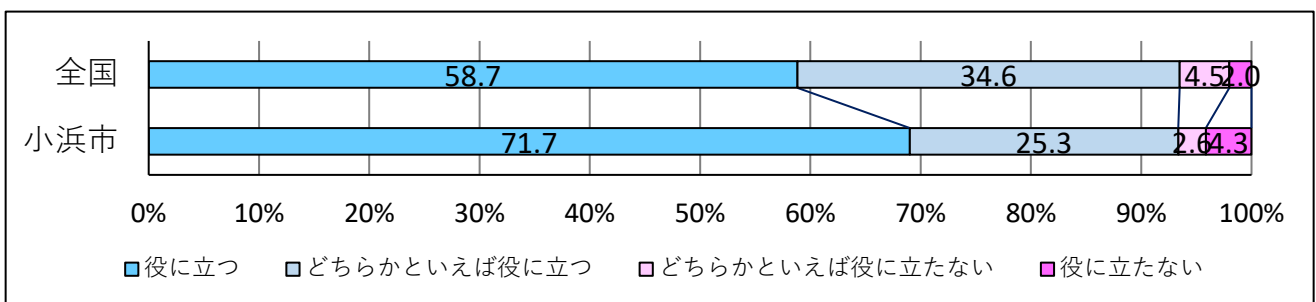


② 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つ

小学6年



中学3年

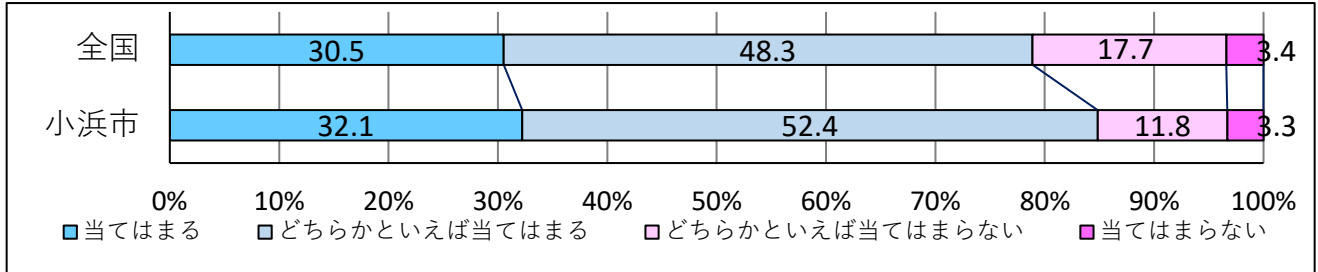


◎本市では、学習場面における ICT 機器の活用頻度が全国平均と比較して高いです。特に中学校での活用が目立っています。また、ICT 機器が勉強の役に立つと感じている児童生徒の割合も全国と比較して高くなっています。今後は、様々な場面におけるより効果的な活用方法について、実践研究を進めていきます。

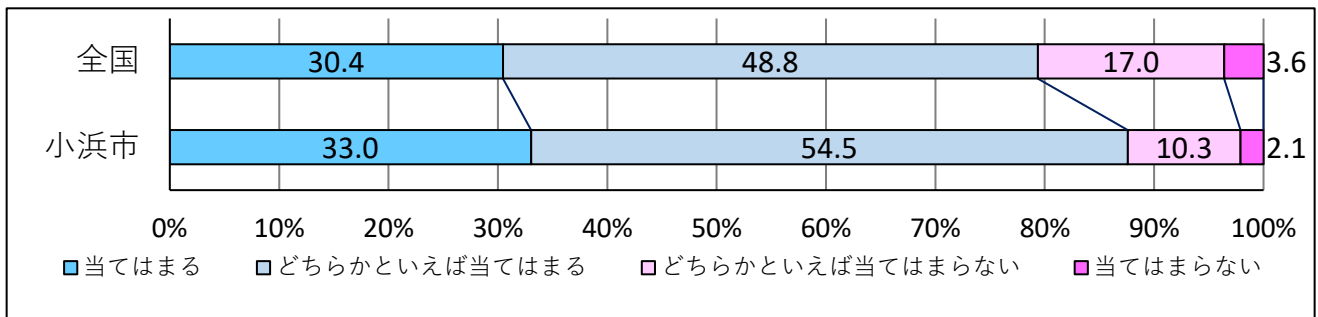
(5) 授業や学習活動について

- ① 小5年生までに（中1・2年生の時に）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学6年

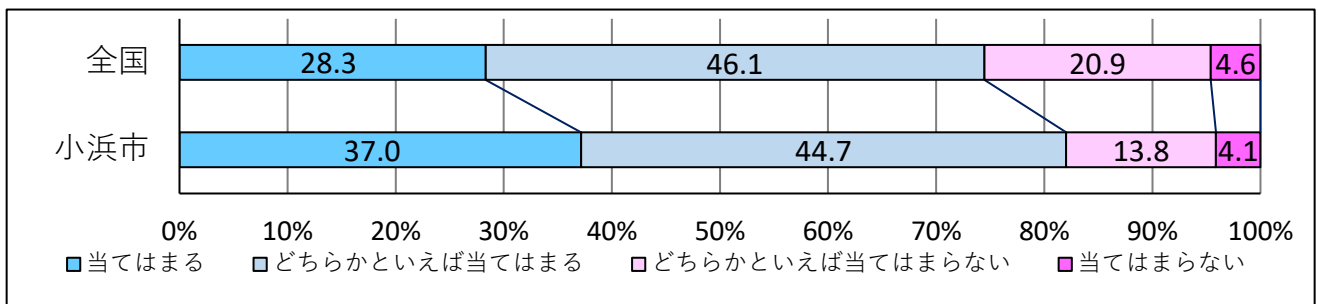


中学3年

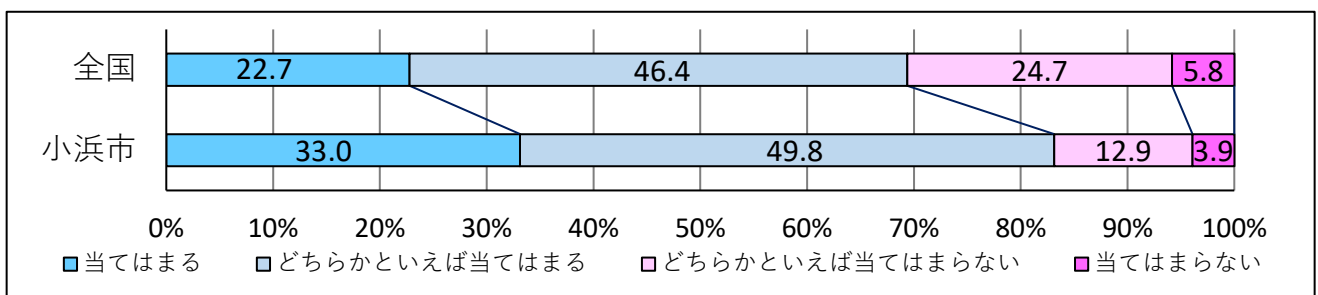


- ② 小5年生までに（中1・2年生の時に）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

小学6年

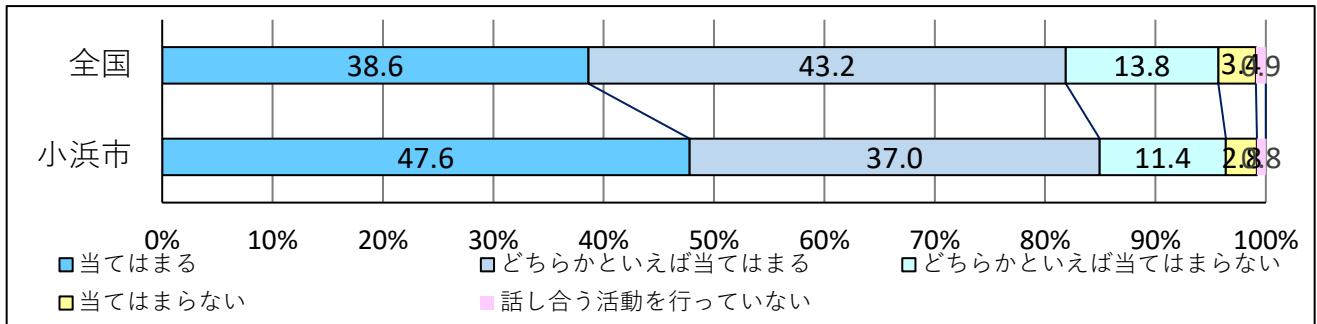


中学3年

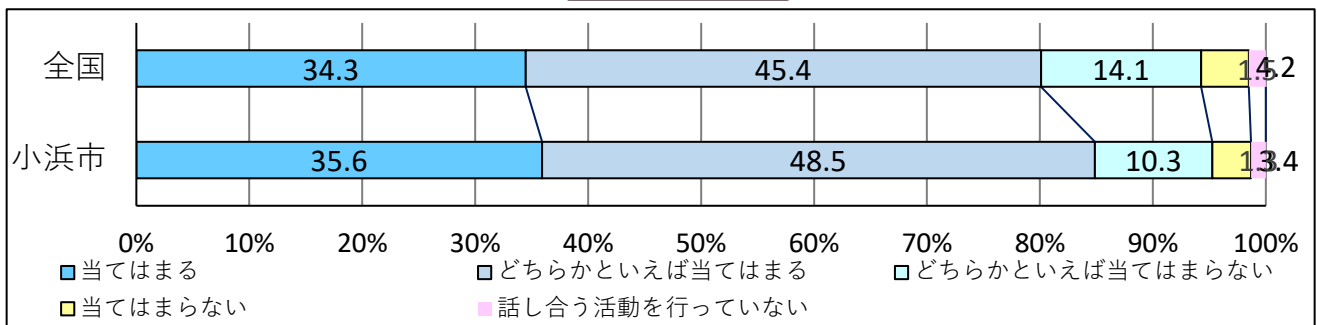


③学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

小学6年

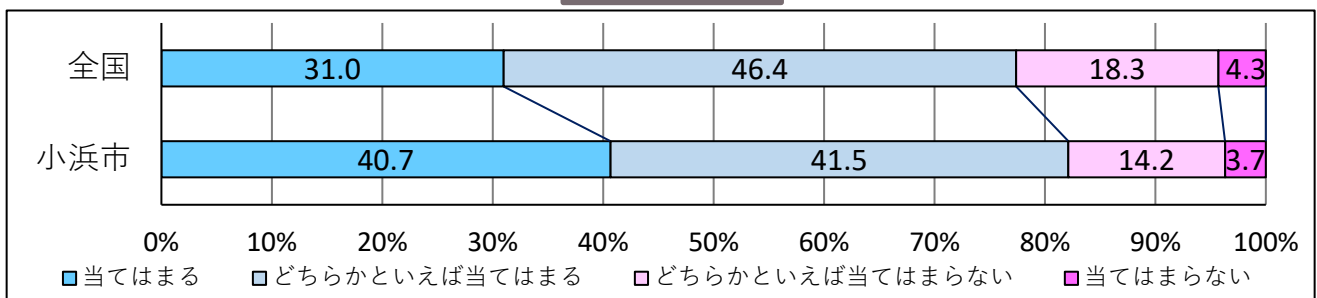


中学3年

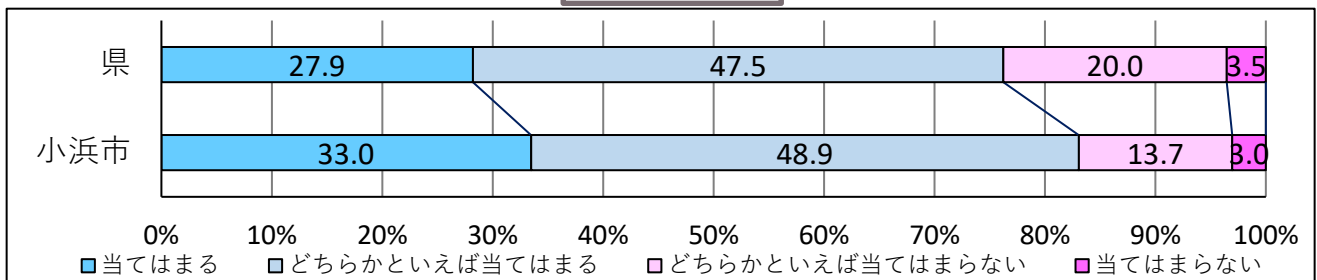


④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる

小学6年



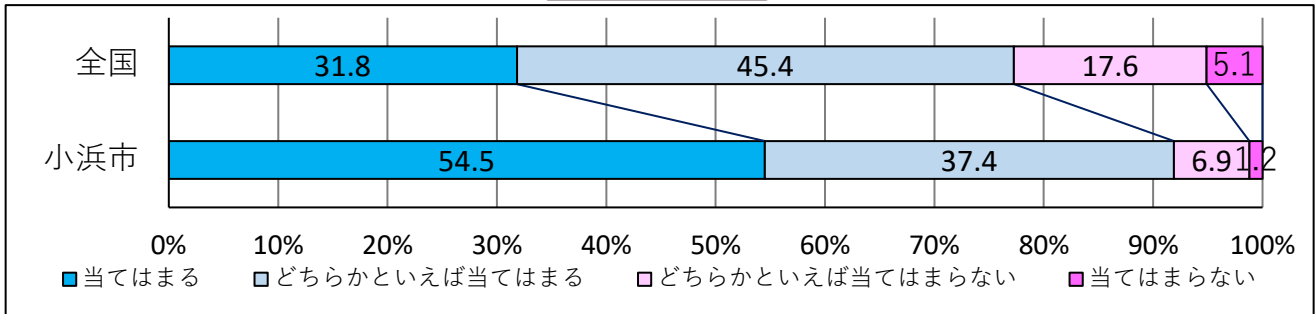
中学3年



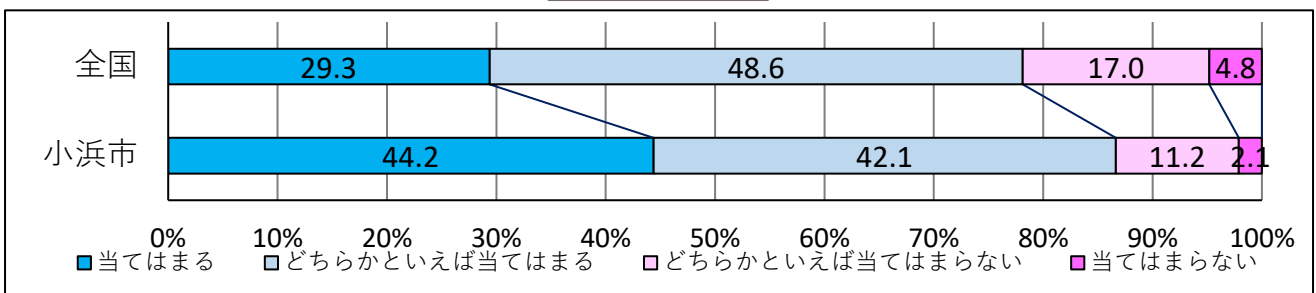
◎主体的に学習に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べて高くなっています。また、話し合いやふりかえりを通して、学びを深めることができていると感じている児童生徒の割合が全国と比較して高くなっています。

⑤自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

小学6年

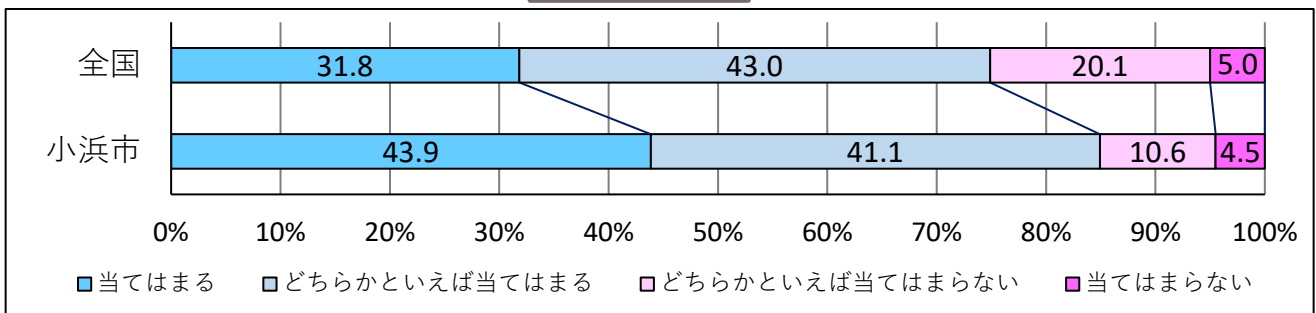


中学3年

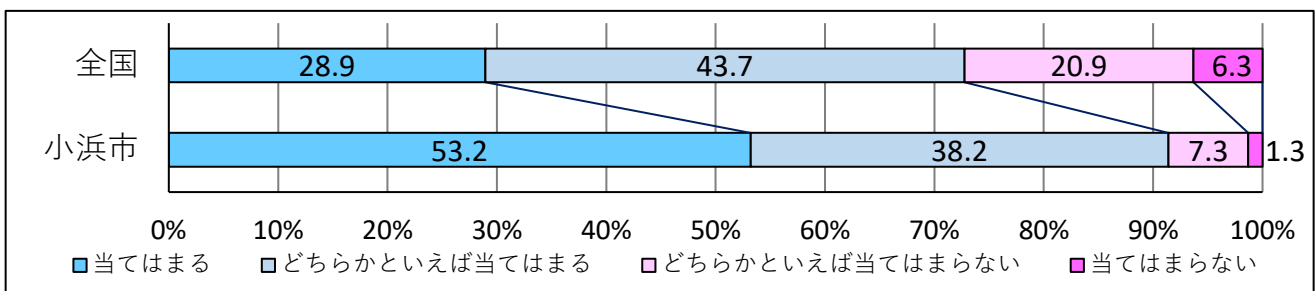


⑥総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

小学6年



中学3年



◎学級活動、総合的な学習の時間では、それぞれの特質を踏まえて充実した学習ができている児童生徒の割合が全国平均と比較して高くなっています。

3. 調査結果を受けて

小浜市では今回の結果を受けて、今後も次のことに重点を置いて取り組んでいきます。

① ふるさと教育・キャリア教育の充実

小中の接続を重視し、また、各教科における学びとの関連を大切にしたい探究的な「ふるさと学習」や「キャリア学習」を通して、これからの社会や地域の在り方と関わらせることで自己の生き方を考え、「志」を持って学びに向かう力を育成していきます。

また、郷土の偉人や現在地元で活躍している先輩等を積極的に取り上げ、苦難にめげずに誠実に生きた、あるいは、生きている人の人生模様に触れる学習を進め、児童生徒が生き方に対する考えを深めながら、自己のキャリアデザイン力を高めていけるよう支援していきます。このようにして育んでいく「郷土を愛する心」と「キャリアデザイン力」は育成を目指すすべての資質・能力の根幹の資質・能力であると考えています。



② 学びに向かう意欲や態度の育成を重視しながら求められる資質・能力を育成

変化が激しい時代の中、子どもたちが未来社会を自立的に生きていくためには、学び続ける意識や変化に柔軟に対応しながら人生を切り開いていくための「学びに向かう意欲や態度の育成」が重要です。

そのために、各教科・単元で育む資質・能力を明確にし、児童生徒が教科横断的に見通しをもって学んでいけるように努めます。

授業では、ICT 機器を有効活用しながら、子ども達が自分の考えを持って、友達に伝えたり、友達の考えと自分の考えとを比べて相違点を見つけたり、さらにはそうした過程の中で新たな課題を見つけて深く追求したりできる場を設定します。学習の終わりには自らの学びを振り返って、考えを再構築したり、学びの深まりを自覚したりすることで、「もっと学びたい」という意欲や態度を育成していきます。

このような学習サイクルを着実に回していく中で、各教科等それぞれの「見方・考え方」を働か

せ、個別具体的な内容を学ぶことを通して、汎用的な「資質・能力」を3つの柱（①生きて働く知識・技能②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性）に沿って育成していくことを目指します。

③ 個別最適な学習にむけて

ICT機器の活用

各教科の苦手分野の克服だけでなく、得意分野を伸ばしていくために、デジタルドリルの活用を進めていきます。小学校では、毎日帯どりのドリルタイムを確保し、デジタルドリルを活用して、自分に合った内容を自分のペースで学習を進めていきます。

また、小・中学校では、各々の学習履歴に応じた課題の配信機能を有効に活用し、知識・技能の確実な定着を図っていきます。

ICT 機器を子どもたちの学習に有効に活用していくことと並行して、情報モラルに関する学習を発達段階に応じて行い、ICT 機器と安心してつきあっていける環境づくりにも取り組んでいきます。家庭での課題学習の在り方についても児童生徒の実態に合わせて計画的に調整を行っていきます。

子どもたちは地域の宝です。未来ある子どもたちを地域・家庭と連携して育てていきたいと考えています。

次年度の調査予定

期日 令和6年4月18日（木）

対象 小6，中3

教科 国語， 算数・数学